

「いじり」は「いじめ」

兵庫県 姫路市立高丘中学校 2年
尾崎 七星（おざき ななせ）

「いじられキャラ」という言葉を聞くと、「みんなから愛される人」という印象を持つと思う。だが、本当にそうなのだろうか。

私の友人に、よく周りからいじられている子がいた。その子はいつもニコニコしていて、誰にでも優しく、全く怒らないタイプだった。だからみんなは毎日その子をいじっていた。最初のころは、軽いいじりだった。私もその子のことをいじり楽しんでた。だがそのいじりはだんだんエスカレートしていった。その子のことをひどくバカにしたり、みくびった発言をしたりしていた。日が経つごとに、いじりはひどくなっていった。ひどい時にはその子を部屋に閉じこめ、出られないようにドアを押さえたり、カギをかけたりした。

「ねえ開けてよ！」

そう言ってもみんなは笑っていた。さすがに私は、いじめなんじゃないかと思った。周りの人も、何人かはそう思っているようだった。しかし、その場の空気や本気で楽しんでいる人達に怖気づいてしまい、私は何も言えなかった。そして何よりその子も笑っていたからだ。嫌そうな顔をせず、楽しんでいるように見えたからだ。なので私はこの子は大丈夫なんだなと思い、そのままみんなと笑っていた。この頃から、その子へのひどいいじりは毎日になり、あたりまえになっていった。その子をたたいたり強く押したり、その子から逃げたり避けたり、もうなんでもありだった。しかしその子は一度たりとも嫌な顔をしたり怒ったりはしなかった。ただ笑っていたのだ。もう私は、ひどいいじりを受けている所を見ても、何とも思わなくなっていた。私はその子のことを、「何をされても怒らない子」と勝手に決めつけていた。

ある時から、私も周りの人からいじられるようになった。初めはちょっかいをかけられるぐらいで、私も楽しかった。だがそのいじりもだんだんひどいものになっていった。まず、私のことが嫌いだと何人かに大きな声で叫ばれた。冗談だということは分かっていたが、何だか惨めな気持ちになった。私がみんなの方に行くと逃げられたりした。くつをとられたり、隠されたりした。すごく嫌で、やめてほしかった。本当は嫌って言いたかったけど、もし言ったら空気を壊してしまいそうと言えなかった。何より、仲の良い友達にいじられるからすごく言いづらかった。だから笑って耐えることしかできなかった。ところが私へのいじりは日に日になくなっていく。ホッとしたが、心の中はもやもやしていた。

私は実際にいじられてみて、気付いたことがあった。それは、「いじり」は「いじめ」と変わらないということ。いじっている人からすれば、「いじめ」ではなく「いじっているだけ」と思うかもしれないが、いじられている本人からすると、「いじめられている」と感じてしまう「いじり」もあるのだ。

そのことを身に染みて実感する出来事があった。毎日みんなからひどいいじりを受けていながらも、笑顔だった友達が泣いたことだった。私はすごく驚いた。この友達は「何をされても怒らない子」ではなかったのだ。そもそも、そんな人なんていないのだ。そして私は気がついた。それは、無意識に私は「いじめ」をしていたということだ。「軽いいじり」は、いつのまにか、「いじめ」に変わってしまったのだ。私はその子に謝り、それ以来いじることをやめた。

私は実際にいじられることで、「いじられキャラ」の辛さを知った。「いじられキャラ」はけして「愛されキャラ」ではなかったのである。私は「いじめ」と「やりすぎたいじり」は同じだと思うが、私は「やりすぎたいじり」の方が恐ろしいことだと思う。それは仲の良い友達にされるからである。嫌われたくない思いがあるから、嫌と言えないし助けを求められないのだ。私はそんな恐ろしい「やりすぎたいじり」をする人がいなくなってほしい。そのいじりはいじめと変わらないということに気付いてほしい。そして何より「いじめ」や「いじり」に苦しんでいる人がいなくなってほしいと思う。いじられて嫌な思いをしている人は、嫌と言える勇気が必要だと思う。その空気を壊さなければ、状況は何も変わらない。いじっている人は、自分がいじめをしているという自覚がない。だから勇気を出して行動を起こさなければならないのだ。

私は、「いじり」は「いじめ」と変わらないということを多くの人に知ってもらいたい。そして何より、「いじめ」や「いじり」がこの世界からなくなってほしい。

もし、いじめやいじりで苦しんでいる人を見つけたら、手を差し伸べようと思う。